

## 若手の会だより

～第56回生物物理若手の会 夏の学校  
北海道・東北開催～

田宮裕治

北海道大学理学院 電子科学研究所  
データ数理研究分野 (小松崎研究室) D3

### — 事の始まり —

生物物理若手の会 夏の学校. 通称, 夏学.

生物物理を研究する, もしくは興味を持つ学部生, 大学院生, PD, …etc. が全国津々浦々から集う, 合宿形式の研究交流会. 毎年若手が中心となって開催. 普段聞けないような講演, 参加者同士のポスター発表で毎晩朝まで大いに盛り上がり, 分野や手法の垣根を越えて語り合う. 若手同士だけでなく講師の先生方とも親交を深め, 研究室に籠っているだけでは得られない経験を各々の大学に持ち帰る.

実は生物物理学会より歴史が長いというこのサマースクール. いつからかは知らないが, 全国の若手の会支部が持ち回りで開催準備を担当してきた. 関東, 中部, 関西. 2009年からは, 新たに北海道支部もその輪に加わるようになった.

そして2015年8月. 関西支部主催で開かれた第55回. 例年より参加人数こそ少なかったものの, 個性豊かな先生方が揃い, 皆ご満悦. 宴も酣. しかしその裏で, 関係者陣は大きな問題に直面していた.

次回, そう, 第56回をどうするか?

本来であれば, 北海道支部が開催する番. しかし, 北海道は, 2012年に開催して以来, 支部員の数を順調に減らし続けてきた. 4年前第52回開催の首謀者,

S氏はとっくに卒業. 主要スタッフ三傑, N氏, O氏, T氏も, 翌年にはいなくなってしまう. 残る常勤メンバーは, 当時M1でスタッフをしていた田中のほかは, 2014年にDから北大にやってきた秋田と田宮 (※注1). 彼らも翌年には全員D3. 正直, このメンツでの夏学準備は厳しい. もはや, 3回目にして北海道開催は絶ち消えか? 誰もがそう思ったそのときであった.

「ん? 俺, 手伝おうか?」

そこに現れたのは, 東北大学の齋藤. 前年の夏学から姿を現し, その飄々とした人柄から運営陣とも意気投合. 曰く, これを機に東北支部を立ち上げて, 共同で開けばいいのでは? と. 東北支部設立 — 前年の生物物理学会の若手懇親会にて, 軽いノリで振った話. それがまさか, このような予想にもしなかった形で実現に向かって動き出すとは. (※注2)

こうして, “北海道・東北連立政権” による第56回夏の学校運営委員会が組織されるに至った.

### — 概要 —

随分大仰な前置きをしてしまいましたが, 第56回生物物理若手の会 夏の学校, 新たに立ち上げる東北支部とともに, 北海道にて開催いたします. 開催概要は以下の通りです.

#### 〈第56回生物物理若手の会夏の学校 開催要覧〉

日程: 9月2日 (金) ~ 5日 (月)

開催場所: 支笏湖ユースホテル

(北海道千歳市, 新千歳空港よりバスで30分)

プログラム (暫定)

1日目 オープニングセッション, 交流会

2日目 メインシンポジウム (3コマ連続講演), 特別企画 (講師の方々による論文紹介)

3日目 分科会 × 4コマ (支部セッション)

4日目 クロージングセッション

今回の夏学のテーマは「無生物から生物の科学」と題しまして, “物質と生命の違いは何か?” という問いを出発点に, 個人個人が持つ生命観を語り合いぶつけ合う場にしたいと考えております.

特に2日目のメインシンポジウムでは, パーツとなる個々のタンパク質を極める側, 実際に人工的に細胞

や器官を作る側、生命を貫く普遍的な原理を探る側の異なる視点を持つ3人の先生をお招きします。そして、「生命を理解するとはなにか?」、「何をもって『生命』と呼ぶか」について、参加者同士による理解の深め合い、パネルディスカッションを織り交ぜつつ、講師参加者一体となり議論を交わしていきたいと考えております。

また、3日目には全国の若手の会各支部が腕を奮って分科会をオーガナイズし、メインシンポジウムでは扱えなかった個別のトピックスについて、自分の興味に応じて掘り下げていく場を提供いたします。

そして連日夜には毎年恒例、懇親会を兼ねたポスターセッション。研究の話をきっかけに参加者同士ならびに、先生方とも交流を深めていきます。



懇親会兼ポスターセッションの様子  
(2012年北海道開催時@支笏湖ユースホステル)

その他、今回特別企画として、先生方によるジャーナルクラブを企画しております。普段学生が発表させられる論文抄読会。これを逆に先生にやってもらおう!という企画です。大御所の先生や、新進気鋭の先生が、どんな論文を選んで来るのか? どう読むのか? 「研究の先輩」から若手へのメッセージ溢れた発表を期待しております。

このように、第56回では、参加者先生方を巻き込んだ双方向的なコミュニケーションを通して、一つの問いに対する多角的な視座を獲得しつつ、若手同士の分野横断的な交流を活性化させていきたいと思っております。

普段の研究生活では味わうことのできない、夏学ならではの、若手ならではの貴重な経験が得られること間違いなしです!

「でも北海道なんて、遠いし、お金もかかるでしょ?」

そうお思いの方、ご安心ください!近年LCC(格安航空)が普及してきたおかげで、お手頃な価格であるという間に北海道まで来ることができます!

東京成田空港からであれば、チケットの選び方次第では片道7000円~15000円程度!(※注3)ANAやJALのような大手航空会社でも、早めに予約すればLCC並みのお手頃価格で購入できます。また、最寄りの空港にLCCが通っていない場合等も考慮に入れ、参加者への旅費援助を手厚く施せるよう、只今絶賛調整中です。

ということで、全国の若手の皆さん、北海道で開かれる夏の学校に是非是非お越しあれ!個性豊か、かつエキサイティングな研究者との出会いが、あなた方をお待ちしております!

#### — 運営スタッフ —

田宮裕治(北大D3[理論], 校長), 齋藤明(福島県立医科大助教[実験], 教頭), 秋田大(北大D3[実験・理論], 会場), 田中良昌(北大D3[実験], Web・会計), Stephanie Nix(秋田県立大助教[理論], 広報), 野島慎五(北大M1[実験], 会計), 三本齊也(北大B4[理論], 協賛), 長内尚之(北大D2[実験], 協賛) ※所属・学年は平成28年4月時点

#### — 謝辞 —

夏学の開催にあたり、多くの先生方、企業及び研究機関、財団法人にご協力頂いております。また、運営に際して、過去携わられた先輩諸兄や、生物物理若手の会所属の皆様にも多数の助言・声援を頂いております。

この場を借りて御礼申し上げるとともに、今後とも夏学の開催まで暖かい目で見守って頂けたらと思います。

※

※1 本誌 Vol. 55 (2015) No. 1 若手の会だより参照。

※2 本誌 Vol. 56 (2016) No. 1 若手の会だより参照。

※3 安い反面、本数が少ない、変更が効かない、時間に厳しいなどの注意点もございます。また、時期と購入のタイミングにより、大きく価格が変動します(基本的には早く買うほど安い。)詳細は、HPや参加登録時にも随時告知いたします。